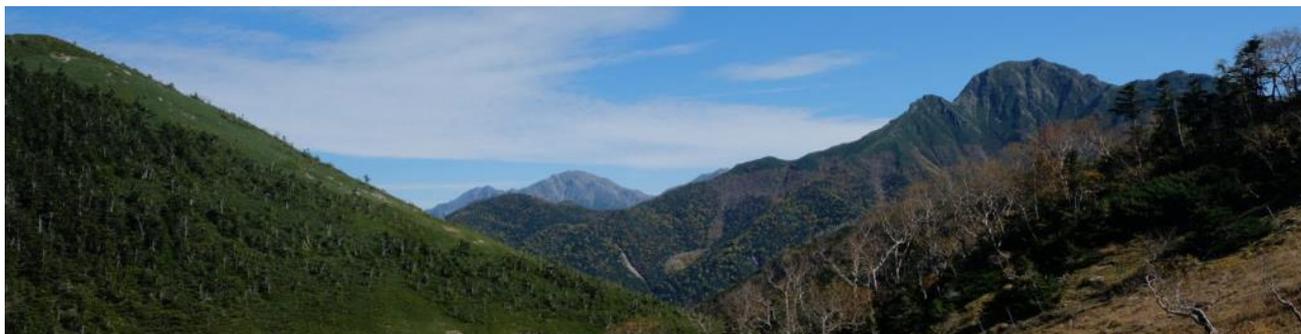


南アルプスから学ぶ会 トークセッション



南アルプス 再発見

近くて遠い南アルプス。

登山家たちは、麓を通り越して3000mのピークを目指します。

海外や日本各地の山々を登ってきた登山家にとって、

南アルプスやその周辺にはどんな魅力や可能性が見えるのか。

豊かな自然を残し親しみ遊びたおすため、山麓に根を下ろした二人の登山家が語ります。

大蔵喜福 さん（登山家、南信州山岳文化伝統の会）「エコ登山発信基地の作り方」

× **宗像 充** さん（ライター、大鹿の十年先を変える会）「南アルプスあやしい探検隊」

●日時 2020年**11**月**23**日（月、祝）13:30～16:00

●場所 大鹿村大河原交流センター大広間（大鹿村「道の駅」前）

●参加費 500円（申し込み不要、直接会場にお越しください）

フィールドワーク 「夢のリニア、建設現場の真相」

◆同日 10:00～11:30

◆集合 ディアアイター前

*人数把握のため事前に申し込みください

予約先 TEL 0265-39-2067

主催 南アルプスから学ぶ会、大鹿の十年先を変える会

問い合わせ TEL 0265-39-2067(宗像)

プロフィール

大蔵喜福さん



14歳から登山を始め20歳でヨーロッパアルプスに。J E C C（日本エキスパートクライマーズクラブ）に所属し、1979年に世界初のヒマラヤ縦走登山（ダウラギリⅡ～Ⅲ～Ⅴ峰）に成功。冬期チョモランマ最高到達地点記録（8450m）を持つ。30年間のマッキンリー気象観測隊を継続。今年5月から遠山谷に移住し、木沢小学校を拠点に、南アルプス南部をエコ登山基地にすることを旨とする。

宗像充さん



一橋大学山岳部OB。登山雑誌の岳人、山と溪谷等で執筆。NHK「日本の名峰」で三脚持ちをする。アウトドア誌のFielderでは「反権力生活の勧め」を掲載予定。南アルプスは学生時代の夏休みに甲斐駒〜光まで縦走、冬期北岳バットレス他、沢をたしなむ程度。『南アルプスの未来にリニアはいらない』『ニホンオオカミは消えたか』著。大鹿村在住。南アルプスの山々を「シャードの森」にすることを旨とする。